

2015年度の放射線検査室のスタッフは、診療放射線技師7名（2月、3月は6名）であった。

主な業務は一般撮影、造影透視、CT、MRI、骨密度測定で、救急外来に対しても24時間の対応を行った。

1. 2015年度の活動

（1）放射線機器について

放射線機器の老朽化に伴う故障を防ぐため、機器の状況把握と情報共有を徹底した。些細なエラーにも細心の注意を払い対処し、重大な故障や、故障による稼働停止を防ぐことができた。

（2）技術連携について

放射線検査室の場合、新たな技術、知識の習得は学会や研修会に頼るところが大きい。済生会熊本病院での研修も可能ではあるが、人員的に業務遂行が困難となる。熊本病院の協力を得て、新たな技術連携の体制が構築できないか協議を続けてきたが、実現には至っていない。今後も技術連携の方法を模索していく。

（3）業務範囲の拡大

前年度に引き続き業務範囲の拡大の試みとして、乳腺超音波検査の技術習得を目標に当院検査室の指導の下に研修を行った。

また新たに、2015年度から腹部超音波検査の研修も開始した。今後もより広い技術を習得することで、スタッフのスキルアップ、さらに乳腺外来や健診の業務を効率化し受診者へのサービス向上が図られるよう、関連部署と連携し円滑な業務が遂行できるよう協力していきたい。

（4）職場環境について

ストレスの少ない働きやすい部署を目指し、活発なコミュニケーションを心がけ教務にあたった。また有効な年次休暇の取得や、連続勤務の解消のために当直業務、特に休日祝日の人員配置を再考し、ワークライフバランスの充実を図った。

置の調整など時間を要すると思うが、地道に努力していく。

（2）放射線機器について

全体的に機器の老朽化が見られる。関連部署、メーカーと機器の状況を共有し、計画的に機器の更新を行い、地域医療に貢献できればと考える。

（3）業務体制について

次年度はスタッフの入れ替わりが予定されている。新入スタッフの教育を含め、業務の分担や人員配置など、安全な検査を提供できるように業務体制の再構築を行っていく。

2. 今後の展望

（1）腹部超音波検査への参入

乳腺に続き、腹部超音波検査に関しても診療や健診に参入できるように研修を行ってきた。実際に検査を行えるようになるまでには、さらなるスキルアップや人員配